

平成24年3月22日

ナショナルバイオリソースプロジェクトに採択 ～理学研究科のプロジェクト～

文部科学省 平成24年度「ナショナルバイオリソースプロジェクト（第3期）」の中核的拠点整備プログラムに大学院理学研究科附属植物遺伝子保管実験施設の「広義キク属リソースの収集・保存・提供」が継続分として採択されました。

採択プログラム「広義キク属」の目的

本プログラムは、キク科の中でも広義のキク属（キク属とその近縁属）の植物および関連する研究用リソースの提供を行っています。

キクは日本の切り花生産の3分の1を占めるなど産業的にも文化的にも重要な植物です。キク属は東アジアを中心に分布していますが、日本固有種も多く絶滅危惧種も少なくないことから積極的に保存していくべき重要なリソースです。

このプログラムではさまざまな広義キク属野生種を収集するとともに、その多様性の研究にも有用な二倍体野生種キクタニギクをモデル植物として確立することを目指しています。栽培ギクは高次倍数性であることから分子遺伝学的な研究には適しません。キクタニギクは栽培ギクに良く似た特性を持つことから栽培ギクの研究にも大変有用と考えられます。

【ナショナルバイオリソースプロジェクトとは】

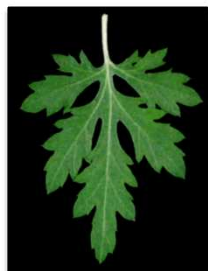
文部科学省では、ライフサイエンスの総合的な推進を図るため、平成14年度から「ナショナルバイオリソースプロジェクト」を実施しています。本プロジェクトは、ライフサイエンス研究の基礎・基盤となるバイオリソース（動物、植物等）のうち、国が戦略的に整備することが重要なものについて、体系的な収集・保存・提供などを行うための体制を整備するものです。またバイオリソースの質の向上を目指し、保存技術の開発、ゲノム解析などによるバイオリソースの質の向上など、時代の要請に応えたバイオリソースの整備も行うものです。

第3期は、平成24年度から平成28年度に実施します。

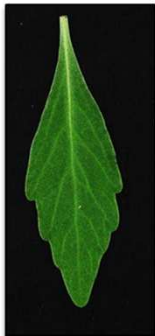
【問い合わせ先】

大学院理学研究科
附属植物遺伝子保管実験施設長
教授 草場 信
TEL:082-424-7490

広義キク属リソースの収集・保存・提供



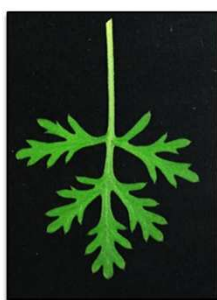
C. seticuspe



C. vestitum



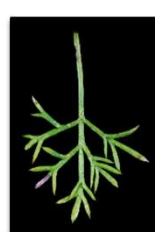
C. japonense



C. zawadskii



C. pacificum



C. maximowiczii



C. makinoi



C. morii



C. yoshinaganthum



C. indicum



C. chanelii



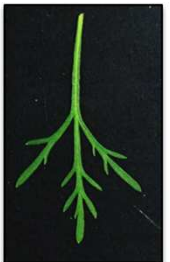
C. wakasaense



C. potaninii



C. arcticum



C. glabriusculum



C. morifolium



C. seticuspe
(キクタニギク)